



昭和薬科大学・連携協定を締結

国民の健康維持と疾病治療に貢献

昭和薬科大学は3月26日に国立医薬品食品衛生研究所と、また3月27日には国立成育医療研究センターと連携大学院協定を締結した。連携による相乗効果で新しい視点からの発見や技術開発が進み、各機関が国民の健康維持と疾病治療について、さらに貢献していくことが期待される。

今回の連携大学院協定締結については、いずれも4月6日に昭和薬科大学がプレスリリースを行った。

昭和薬科大学大学院ではベーシックサイエンスとレギュラトリーサイエンスとの融合（昭和薬科大学／国立医薬品食品衛生研究所）及びベーシックサイエンスとクリニカルサイエンスとの融合（昭和薬科大学／国立成育医療研究センター）の両輪でさらなる発展を目指していく。大学院に客員教授を迎えることで、学生は最前線の知識を学ぶことが可能になる。

昭和薬科大学大学院と国立医薬品食品衛生研究所による「連携講座」に関する協定

▼締結日

2020年3月26日

▼締結の目的

両者が緊密な協力体制を構築し「連携講座」を設置することで、大学院の

教育研究並びに学術及び科学技術の発展に寄与する。

▼連携の概要

協定締結により、国立医薬品食品衛生研究所の研究者を昭和薬科大学大学院の客員教授として迎え、医薬品食品衛生に関する最新の専門知識を学生が学べるようになる。また学生が、日本におけるレギュラトリーサイエンスの中心地である同研究所の専門家から大学院の研究指導を受けられるようになる。一方、研究所における共同研究に学生の若い活力が参加することで、独自の研究を進展させる等、研究活動の一層の活性化を目指す。

▼期待されること

大学の薬学に関するベーシックサイエンスと、同研究所のレギュラトリーサイエンスが、次代の教育・研究を担う大学院生が架け橋となって出会うことで、相乗効果を生み出すことが期待

できる。具体的には、新しい視点からの発見や技術開発が進み、両者が国民の健康維持と疾病治療の観点においてさらに貢献することが期待できる。

昭和薬科大学大学院と国立成育医療研究センターによる教育研究協力における連携（連携大学院）協定

▼締結日

2020年3月27日

▼締結の目的

両者が相互に連携することで、昭和薬科大学大学院における教育研究活動の一層の充実を図るとともに、成育センターの研究活動の推進及びその成果の普及を促進することで、学術及び科学技術の発展に寄与する。

▼連携の概要

協定締結により、成育センターの研究者を昭和薬科大学大学院の客員教授として迎え、成育医療に関する最新の知見を学生が学べるようになる。また学生が、成育医療に関する最先端の技術・設備等を有する成育センターにおいて大学院の研究指導を受けられるようになる。さらに、成育センターにおける共同研究に学生の若い活力が参加することで、独自の研究を進展させる等、一層の活性化を目指す。

▼期待されること

大学の薬学に関する基礎科学と成育センターの臨床科学が出会うことで、次代の教育・研究を担う大学院生が架

け橋となり、相乗効果を生み出すことが期待できる。具体的には、新しい疾病発症機序の発見や新しい視点からの治療方法開発が進み、両者が国民の健康維持と疾病治療の観点においてさらに貢献することが期待できる。

また、昭和薬科大学大学院生が成育センターで成育医療に関する最新の知見を学び共同研究に参画することで、成育医療に特化した若手研究者、薬剤師を育成し、成育医療分野における発展に貢献できる人材を育成していく。

問い合わせ先

昭和薬科大学広報委員会

渡部一宏教授

電話・042(721)1511

国立国際医療研究センター COVID19に関する対応

国立国際医療研究センター病院薬剤部は4月17日、WEBサイトに「新型コロナウイルス感染症（COVID19）に関するNCGMセンター病院薬剤部の対応」を公開した。

国立国際医療研究センター病院薬剤部ではCOVID19感染の入院患者に対して診療支援を行っており、薬剤部での対応を紹介することで「各施設でご検討される際にご参考になれば幸いです」としている。

資料はPDFで公開されており、患者対応、PPE（個人防護具）、医薬